

骨寺村の歴史



【和尚】
「さあ、着いたぞ！見てごらん！」

【ナレーション】
大切なものを見せてあげようという和尚さんに連れられて、3人のこども達は四方を山に囲まれた一閑市にある本寺地区の空の上まで来てしまいました。

【子供A】
「わあ、きれいだな。
自然がいっぱいだ。
でも、何が大切なの？
山や川や田んぼ、自然が大切だって言うことかなあ？」

【子供B】
「それなら、他にも似たような所がたくさんあると思うけど。」

【子供A】
「そう言われると……。
和尚さん、なにが大切な村なの？」

【和尚】
「そうか。わからないか。」

【ナレーション】
子供たちにたずねられた和尚さんは、3人にここがどんな特別な所なのか教えてあげることになりました。

骨寺村の歴史



【全員】

「骨寺村の歴史」

【子供A】

「骨寺！…。なんか恐そうだよ。
どこかにお化けがいて、きっと恐ろしいことが起きるんじゃないの。」

【和尚】

「は、は、は、恐くはないぞ。」

【ナレーション】

恐がっている子供たちを見た和尚さんは、まず、「骨寺村」という名前の由来について話すことにしました。

【和尚】

「昔むかしの話なんじゃがなあ……」

骨寺村の歴史



【娘】

「ああ、「お経」を読めるようになりたいな。
でも、お父さんもお母さんも、友達も教えてくれない。
誰か教えてくれる人がいないかな。」

【ナレーション】

村の大きな家の娘は、お経を読むことができなくて、長い間
悲しんでいました。

ある日、いつものようにお経の巻物を広げたまま悲しんでい
ると、暗い天井から突然、声が聞こえてきました。

【ドクロ】

「そなたにお経の読み方を教えてあげよう。」

【娘】

「えっ、誰？今、声が聞こえたようだったけど…。」

【ドクロ】

「そなたにお経の読み方を教えてあげよう。」

【ナレーション】

また聞こえてきた不気味な声に、娘は心臓が飛び出すくら
いに驚きました。

しかし、お経が読めるようになるのならと、座って天井を見
つめました。

骨寺村の歴史



【ナレーション】
すると天井から

【ドクロ】
『慈眼視衆生(じーげんじーしゅーじょう)、福聚海無量(ふくじゅーかいむーりょう)』

【ナレーション】
と、お経が聞こえてきました。
娘は、また、驚きましたが、お経が覚えられるならと天井の
声に合わせてお経を唱え始めました。

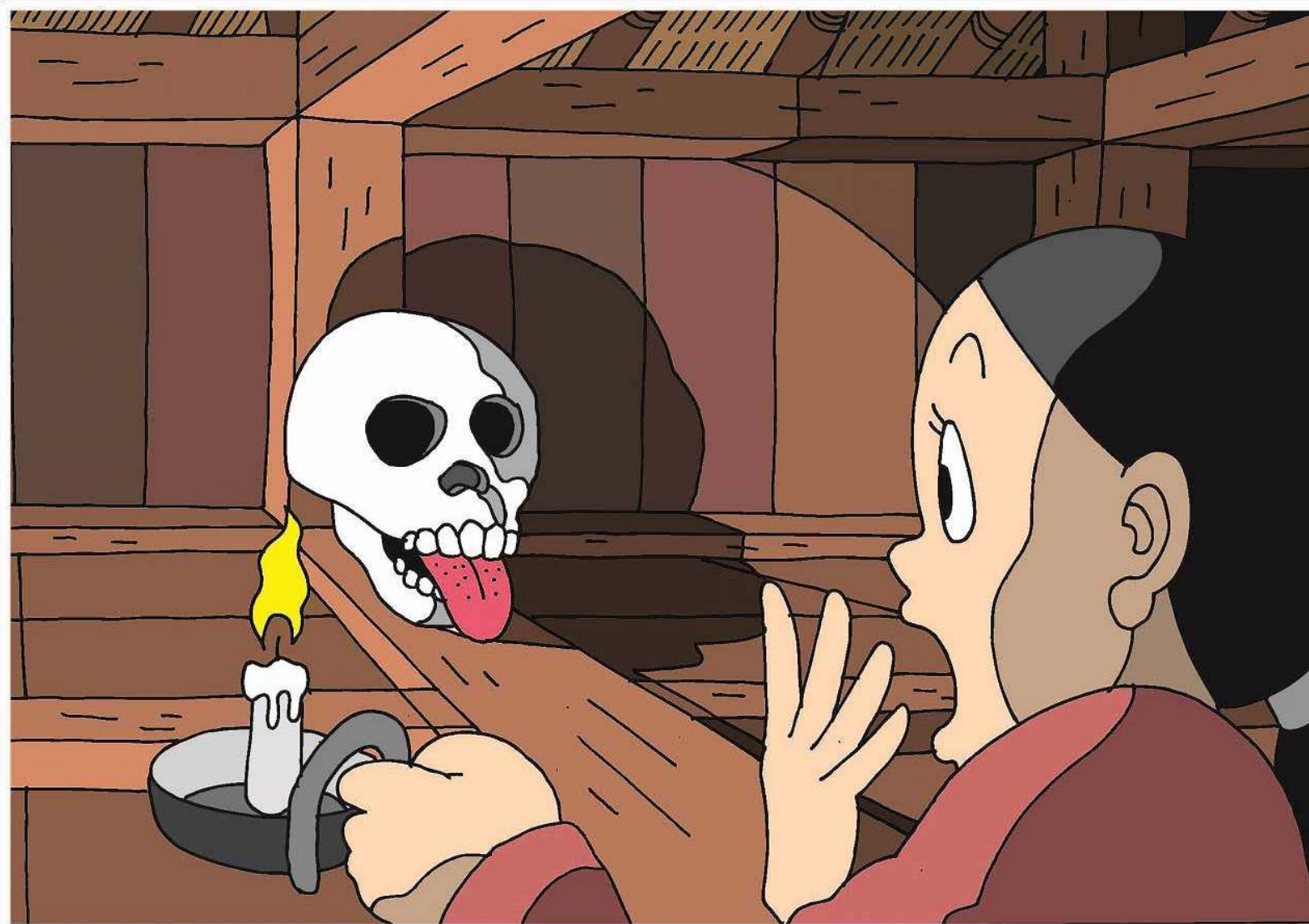
【ドクロ&娘】
『慈眼視衆生(じーげんじーしゅーじょう)、福聚海無量(ふくじゅーかいむーりょう)』

【ナレーション】
このようにして娘は七日七晩お経を唱え、そして八日目、お
経の全てを覚えることができました。

娘は、とても嬉しかったのですが、お経を教えてくれた声が
誰なのか知れなくなり、恐る恐る、天井裏をのぞいてみる
と……。

【娘】
「キヤー！」

骨寺村の歴史



【ナレーション】
ろうそくの揺れる光に照らされた「白いドクロ」が目に飛び込んできました。

娘の方を向いたドクロは、まるで生きているかのように舌だけを動かしていました。

娘は、恐いのをがまんして、たずねました。

【娘】
「お経を教えてくれたのは、……あなたさまですか？」

【ドクロ】
「いかにも。
私は、延暦寺(えんりゃくじ)というお寺にいた「慈恵大師(じえいだいし)」である。

娘よ、そなたの「お経」を読みたいという心とうたれて、教えに来たのだ。

しかし、もう教えることはなくなった。

私を直ぐに「逆柴山(さかしぼやま)」に運ぶのじゃ」

【ナレーション】
娘は、慈恵大師のドクロに言われたとおり、ドクロを逆柴山に運び、ていねいに葬りました。

骨寺村の歴史



【ナレーション】

そのドクロを葬ったところが、現在の「慈恵塚(じえいづか)」
と呼ばれています。

そして、このドクロにまつわるお話が「骨寺村」という村の名
前になったと伝えられています。

和尚さんは、次に、この骨寺村が「特別な所」と言われてい
るのはどうしてなのかを教えるために、3人を歴史の旅に向か
わせることにしました。

【和尚】

「さあ、みんなで骨寺村の歴史を見ておいで。
まずは今から900年前に行ってみなさい。」

骨寺村の歴史



【ナレーション】

3人は、900年前の骨寺村にやってきました。
そこでは、お坊さんが、仏教や土木技術などいろいろなことを教えながら村を造っていました。

【子供B】

「お坊さんは、物知りだったんだね。」

【子供A】

「あっ、遠くの方に金色に輝いて綺麗な建物があるよ。
なんだろう。」

【子供B】

「あそこは平泉という所だよ。行ってみよう。」

骨寺村の歴史



【子供B】

「この建物はなんという名前なんだろう？
そして、だれが建てたのかなあ。」

【清衡】

「それでは、私、藤原清衡(ふじわらのきよひら)が教えてあげよう。」

これは中尊寺というお寺にある金色堂(こんじきどう)という建物で、私が建てたのだ。

平泉の辺りで起きた2つの大きな戦いで命を落としたたくさんの人達の霊を慰(なぐさ)めるため、そして、戦のない平和な国をここに造ろうと願って建てたのだ。

そのために、京都からたくさんの職人を呼び、金色堂だけでなくお寺や仏像も造らせたのだ。」

骨寺村の歴史



こんしきんぎんじこうしょ いっさいきょう
紺紙金銀字交書一切経

【子供B】
「ここでは、お坊さんが何かを書いているよ。」

【ナレーション】
3人がのぞいてみると、何人ものお坊さんが静かに筆を動かしていました。

【子供B】
「紺色をしたきれいな巻物だよ。
文字の色は、金色と銀色が使われている。
とても大切な巻物のようだね。」

【ナレーション】
お坊さん達が書いていたのは、清衡さんから頼まれて書いていたお経でした。

このお経は、「紺紙金銀字交書一切経(こんしきんぎんじこうしょいっさいきょう)」と言うもので、全部で5300巻にもなり、完成するまでに8年もかかったそうです。

現在でも、このお経の一部は中尊寺にあり、国宝に指定されています。

真ん中にいるのは、「自在房(じざいぼう)蓮光(れんこう)」という人で、このお経を作る時に中心となったお坊さんです。蓮光さんは、「骨寺村」を自分の領地として持っていました。

骨寺村の歴史



【ナレーション】
そして、お経を完成させた蓮光さんは、清衡さんにそのお経を差し出しました。

すると、清衡さんは大変喜んで、

【清衡】
「蓮光よ、お前を中尊寺にあるお経をしまっておく「経蔵(きょうぞう)」という所の責任者にする。
これからはお前がお経を守ってくれ。」

【ナレーション】
と、命じました。
光栄に思った蓮光さんは、自分の骨寺村の領地を清衡さんに差し出しました。

すると、清衡さんは、

【清衡】
「経蔵をしっかり守っていくためには、お金もかかるであろう。
骨寺村の地を「荘園」としてお前に与える。」

【ナレーション】
と、改めて骨寺村を領地として与えました。
この時に、骨寺村は中尊寺の荘園になったのです。

【子供B】
「ふーん。
中尊寺と骨寺村は、この時から関係が深くなったんだね。」

骨寺村の歴史



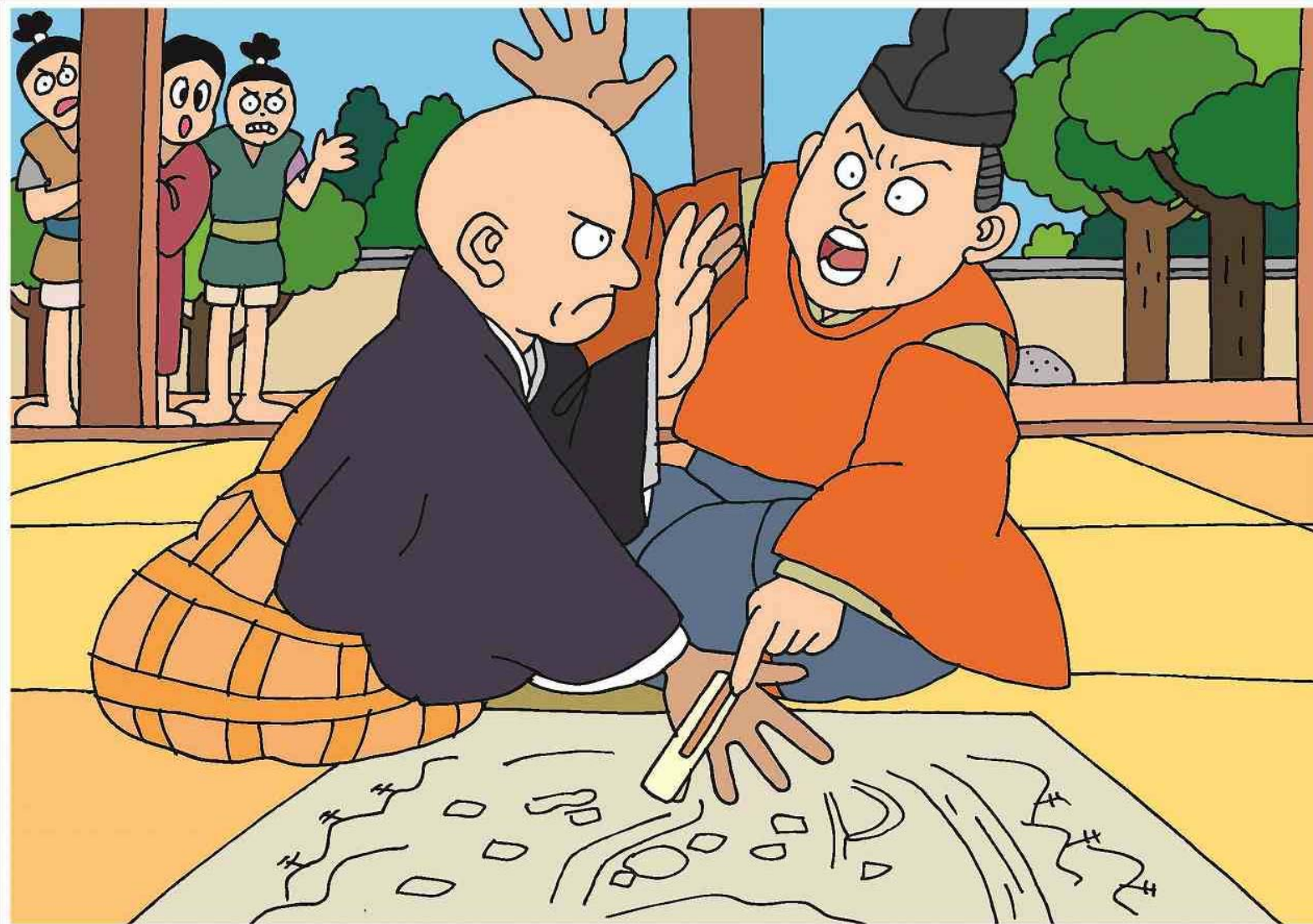
【子供A】
「莊園になってからの骨寺村だ。」

【子供B】
「村人は、一生懸命働いているし、子供たちも楽しそうだね。」

【ナレーション】
骨寺村は、藤原氏の莊園となって平和な暮らしができました。
また、藤原氏が滅んだ後も、源頼朝(みなもとのよりととも)から「中尊寺の莊園」として引き続き認められたので、穏やかな暮らしができたと言うことです。

しかし！ある時、争いが起こりました。

骨寺村の歴史



【中尊寺】
「ここは、私たち中尊寺の領地だ。」

【葛西】
「いや、藤原氏がいなくなった今は、私たち葛西の領地なのだ。」

【中尊寺】
「いや、中尊寺の領地だ！」

【葛西】
「いや、葛西の領地だ！」

【ナレーション】
中尊寺と葛西氏は、領地のことで言い争いを繰り返しました。
その時、中尊寺のお坊さんが、葛西氏の前に絵図を広げて言いました。

【中尊寺】
「この絵図をよく見てもらおう！
これは、中尊寺の荘園である骨寺村を描いた絵図である。
この絵には、骨寺村の境となる山や川が書かれている。
だから、ここまでが私たち中尊寺の領地である。」

【ナレーション】
絵図を見せられた葛西氏は、骨寺村が中尊寺の領地であることを認めなければなりませんでした。
このように、たびたびおこる領地争いを解決するために絵図が描かれたのではないかと、もいわれています。

骨寺村の歴史



【ナレーション】

さて、この絵図は2枚あって、右の絵図は、骨寺村の境をわかりやすく表したもので、「仏神絵図(ぶっしんえず)」や「簡略絵図」と呼ばれています。

また、左の絵図は、「在家絵図(ざいけえず)」や「詳細絵図」と呼ばれ、村の田んぼや家の様子が詳しく描かれています。

2枚の絵図は、現在も中尊寺に残っており、国の重要文化財に指定されています。

骨寺村は、中尊寺の荘園として室町時代まで続きました。

その後、江戸時代には「骨寺」ではなく「本寺(ほんでら)」と言われるようになり、平成の現在まで続いているのです。

さあ、この2枚の絵図を忘れないようにして、平成の本寺を見に行きましょう。

骨寺村の歴史



【子供B】
「絵図の上に描れている山が、本寺の西の方にある『須川岳(すかわだけ)』だ。」

【子供A】
「川や道路、お社(やしろ)も絵図と一緒にだ」

【子供B】
「すごーいぞ！
本寺は、800年前の骨寺村の様子と同じ所が多いんだ。」

【ナレーション】
そうなのです。
本寺は、昔の骨寺村の景色を変えることなく今に伝えているからとても大切な地域なのです。
だから、本寺は国の史跡や重要文化的景観に選ばれているのです。

次に3人は、空から村の様子を試みることにしました。

骨寺村の歴史



【子供A】

「なるほど、空から見ると絵図と同じ所がよくわかるよ。」

【子供C】

「自然の地形に沿った小さな田んぼもある。
曲がいくねったあぜ道や用水路も見える。」

【子供A】

「田んぼと家と林が1つのセットになっているんだね。」

【子供B】

「村を囲む里山も変わっていないよ。
よし、今度は、里山の様子を見にいきましょう。」

骨寺村の歴史



【子供A】
「あ、熊だ！こっちにはニホンカモシカもいるよ。
本寺には、いろいろな動物がいるね。」

【子供B】
「山菜やキノコもたくさんあるよ。
美しい景色だけでなく、豊かな自然もたくさん残っているんだね。」

【和尚】
「本寺の素晴らしい所をたくさん学ぶことができたようだね」

【子供B】
「あっ、和尚さん！」

【和尚】
「では、もう一度、空に上ってみようか。」

骨寺村の歴史



【和尚】
「本寺は、昔からずっと自然とともに生活をしながら、農業をつづけてきた場所なのじゃ。
更に、800年も昔の農村の風景を今でも見ることができるという素晴らしい価値をもつ「日本の宝」といえる所なのじゃ。」

【子供A】
「日本だけでなく、世界の宝じゃないの。」

【和尚】
「そうだ！世界の宝だ。
だから、お前たちは、あの2枚の絵図と一緒に、この本寺の農村風景を末永く伝えていかななくてはならないのだ。」

【子供B】
「今、住んでいる人たちが農業を続けられるようにしたい、たくさんの人に本寺のことを知ってもらいたいして、守っていかなくてはいけないんですね」

【和尚】
「そうじゃ、この風景を未来へ伝えることが私たちの使命なんじゃよ」

【ナレーション】
和尚さんと子供たちは、いつまでも本寺を見つめていたのです。

おしまい